

3. 景観特性

景観の特徴を、南知多町を取り巻く大自然との関係から考えます。次に、共通の景観特性を有するエリアに分けて、景観特性を示します。

3. 景観特性

(1) 景観の特徴

自然豊かな本町では、自然との関わり方は多様です。

古来より人々の暮らしは、自然との様々な折り合いの中で育まれてきました。自然地形などの地勢を受け入れ、それを尊重し、人々の生活の中で生かしてきました（「**受動的**」）。

眺望が得られる場所や集落内の空間などは、眺望や暮らしの活動が育まれ、その活動を通して自然と関わる中で、愛着や感性が育まれてきました（「**中動的**」）。

丘陵の上の農地など、自然に積極的に働きかけることもあれば、敢えて手を付けずにしっかりと保全するという、めりはりをつけた自然への働きかけを行ってきました（「**能動的**」）。

いずれの関わりも、自然と暮らしが調和した景観として暮らしの中に息づいており、「南知多町らしさ」をかたちづくっています。



ここからは、自然との関わり方に注目し、その関わり合いが育んできた景観の特徴を整理します。

■地勢を受け入れ、生活に組み込むことで生まれる景観（**受動的**）

本町の町域には半島部と島しょがあり、温かな気候、丘陵、狭い平地、海とのつながりといった地形の制約の中で集落が形成されてきました。

それぞれの集落では、こうした地勢を受け入れ、それをうまく生かすようにして暮らしが営まれてきました。

山際の集落では、限られた平地で水系を巧みに操りながら水田による農業が営まれ、海際の集落では、海と共存する生活文化を培いながら漁業が営まれるなど、生業と暮らしを一体化させてきました。

また、変化する自然にあらがうことなく、信仰や祭りといった行事を通じて、自然に敬意をもって接してきました。

このように、自然の恵みを暮らしに取り込み、自然と共生するために信仰や祭りを受け継ぐなど、自然と密着した、生業、信仰、祭りの景観がみられます。

【地勢と共にある集落の景観】

通り(路地*20)の風景

それぞれの集落において地形に応じた通りの景観が生まれています。

半島部の海際には平地に集落が広がり、まっすぐな路地の先に海が見通せ、すぐそばに丘陵がそびえる集落では通りの先に家屋よりも少し高くに生い茂った緑の連なりが見えます。一方、篠島は起伏に沿って集落が広がることから、高低差や曲線など変化のある狭い通りの景観が特徴です。



屋根越しに丘陵の緑が見える路地（大井）



通りの先に海が見える（内海）

狭い路地の先に海が広がる（篠島）



高低差により見え方が変化する路地（篠島）



暮らしの風景

集落には生活を営むために必要な機能がつくられました。水路や井戸は生活に欠かせない空間であり、集落の暮らしびりを物語る風景となっています。

また、個々の家屋にも暮らしを営むための工夫が施されています。このような暮らしの工夫が風景となって表れ、本町らしい景観が生まれています。



▲水路と集落（豊丘）



▲瓦の屋根並み（内海）



▶井戸と家屋（師崎）

▼黒い板張り壁（内海）



【暮らしと生業】

漁業の風景

本町の主要産業である漁業は、漁港や水産加工所、市場など漁村らしい風景を生み出しています。



朝市の風景（師崎）



丘陵の緑と漁港（篠島）



漁具が溢れる漁港風景（日間賀島）



市場の風景（豊浜）



海産物を干す風景（片名）



集落のそばにある漁港（師崎）

農業の風景

半島の内陸部においては農業が主要産業であり、集落の周辺には農業用ため池や田畑が広がり、農村らしい風景を生み出しています。



農業用ため池と古くからの集落（豊丘）



山あい広がる集落（豊浜）



農地（内海）



ぼた焼き（野焼き）（豊丘）



草刈り活動（豊丘）

【住みこなしの風景】

集落では暮らしの中で住まいへのこだわりが表現され、それが味わいのある風景をつくる要素となっています。



風合いが味わい深い板張り壁（師崎）



海沿いにある民家の、南国風の植栽（内海）



手入れされた生垣の緑（片名）

【信仰・祭りの景観】

本町内には様々な信仰・祭りの風景が見られます。社寺仏閣、海・丘陵の風景、集落の軒裏が、まつりの舞台となる空間を構成しています。祭りは地域コミュニティによって運営され、大人も子どもも関わる中で、子どもたちの地域を誇りに思う心が育まれると考えられます。



伊勢信仰の場（神明神社,篠島）



丘陵に建つ神社（秋葉神社,内海）



集落と参道（中州神社,豊浜）

師崎

まちなみコラム

「祭りの空間」のある景観

南知多の集落の中には、金属製、木製などさまざまな「鳥居」があります。祭りの日、つまり「ハレ」の日には、集落内の神社が中心となります。このような「祭りの空間」が集落内に用意されています。



ハレの日 師崎の大名行列
出典（ハレの日々 南知多町十七の祭礼）

■自然との交感の中で愛着・感性を育むことで生まれる景観（中動的）

本町では、独自の感性によって自然や地勢に眼差しを向けることで生み出された景観が見られます。

海への眺めが得られる場所は、視点場[※]として大切にされてきました。これは、自然への敬意の表れであるといえます。篠島に見られる鮮やかな色彩の外壁のまちなみは、開放的な空と海と調和しており、港町ならではの独自の感性が育んだ風景です。

このように、海に囲まれて暮らす中で、愛着や感性が育まれ、人々の生活や暮らしの様式に反映されることで独自の景観が生まれています。

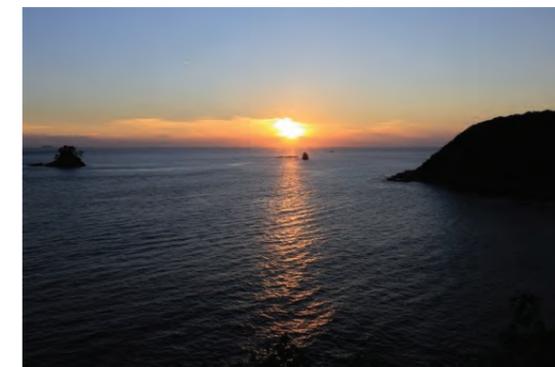
【視点場】

本町内には雄大な自然を眺められる視点場がいくつか見られます。このような視点場は地元の人々だけでなく、観光客らの胸を打つ自慢の風景となっています。

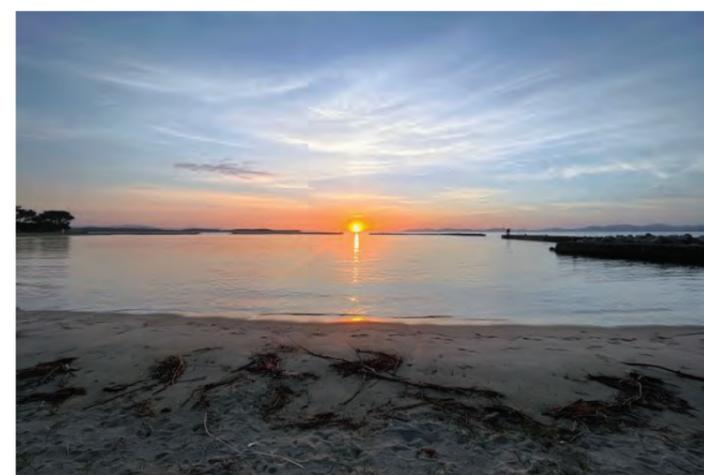
空気の澄んでいる秋・冬の季節には、山の上や島、師崎から、富士山を望むことができます。



つぶて浦の夕日（内海）



海から見える夕日（篠島）



海の向こうから上る朝日（日間賀島）



展望台から見えるパノラマ景観（篠島）



船から見える岬（師崎）



朝焼けの富士（師崎）

富士山の風景は昔から、絵画に描かれてきた、特別な風景です。



南知多と富士山

※右上に、富士山が三河湾越しに描かれている。中央が南知多町。
(吉田初三郎, 南知多遊覧: 天下の絶勝: 交通名所圖繪, 観光社, 国際日本文化研究センターより提供)

【周辺の自然環境と調和した集落の風景】

本町には海のほか、小さな丘陵も特徴的です。丘陵の稜線を遮らない形で、ふもとに落ち着いた外観の集落が広がる風景が見られます。



丘陵と調和する集落（山海）

【海と人々の関わりが表れた風景】

海の砂浜は、住民や町外の人々と海との関わりが、象徴的に現れている空間です。ゴミは自発的に拾われ、いつもきれいに保たれています。



ゴミのない、美しく保たれた砂浜（グリーン・デスティネーションズTOP100[®]に選出された内海海岸）

【にぎわいの風景】

本町には環境によって生まれた独自の風景が見られます。風光明媚かつ食文化が豊かな篠島・日間賀島ではおもてなし・にぎわいの風景が生まれています。



海沿いの旅館（篠島）



建ち並ぶ旅館（日間賀島）

【港町の鮮やかなまちなみの風景】

島で見られない、明るく鮮やかな色彩の外壁は、集落風景をにぎやかなものにしていきます。



開放的な空・海と調和する鮮やかな色彩のまちなみ（篠島）



鮮やかな色彩の外壁（いずれも篠島）

■自然に働きかけることで生まれる景観（ 能動的 ）

本町では、自然の中で暮らしていくために、自然に能動的に働きかけることで生まれる景観もあります。

限られた農地を広げるために切り拓いた丘陵地には、農地と山林が混在する人工的な風景が見られます。穏やかな海を活かし、砂浜を整備することで生まれたビーチの風景も見られます。

このような積極的な人の手の介入によって生まれた景観がある一方で、あえて人の手を介在させないことで守られている景観も存在します。

切り拓く、あえて手を付けない、など能動的な自然との関わりの中で、特徴的な景観が生まれています。

【切り開いた景観】

半島の内陸部に位置する丘陵には近現代になって切り開かれた農地が広がります。



丘陵部に切り開かれた農地（豊浜）

【整備された海辺】

海との関わり方は様々であり、穏やかな海辺には美しい砂浜が整備され、海水浴・レクリエーションで楽しむ人々の姿が見られます。



海水浴客が海を楽しむ砂浜（篠島）

【守られている自然】

本町では、あえて手を加えないことにより守られてきた、雄大かつ力強い自然風景が各地で見られます。



大きな波音と木々のざわめきが聞こえる海辺（篠島）



緑が生き茂る風景（片名）

(2) 共通の特性を有する景観の広がり

本町の景観は、海や山の自然を基盤として、人々が生業や暮らしを長い年月をかけて営むことにより、形成されました。そのため、漁村や農村など集落の成り立ちの経緯によって景観の特性が異なり、その後拡大していった市街地もまた景観特性は異なります。

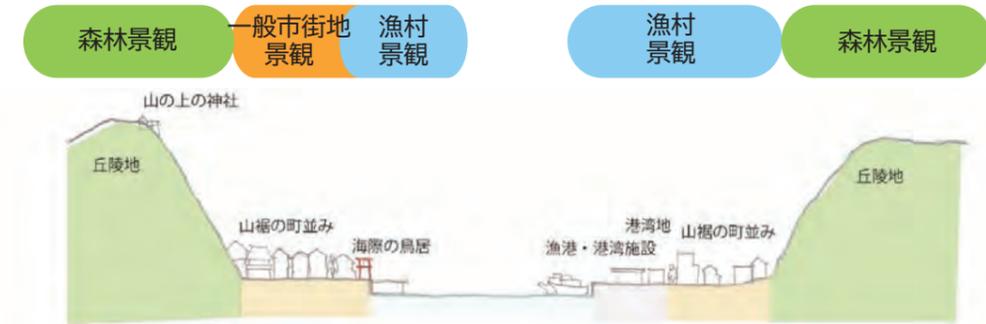
こうした景観特性としては以下のようなものがあります。なお、これらの景観は、一定の広がりのある範囲において共通してみられる特徴ですが、空間の成り立ちは複雑に入り組んでいることがあり、広がりのあるエリアの境界線が明確に存在するわけではありません。

景観特性	特性の内容
一般市街地景観	漁村の後背地等を拡大、あるいは漁村が発展した形で形成された市街地である。 漁村景観よりも道路は広く、各建物の敷地も広いことが多い。現代的な住宅地や、ロードサイド型の店舗も見られる。
漁村景観	伊勢湾と三河湾沿いの入り組んだ湾と丘陵地の間に形成される。篠島と日間賀島の集落も漁村である。 湾には船が停泊する漁港、その周りには漁業関係施設や市場が立地し、更にその奥には、漁村の生活に必要な商業系用途、入り組んだ路地を持つ集落が形成される。
農村景観	漁村の後背地、半島部にある平地や、新たに開発された農地のある半島の内陸部等に見られる。 海沿いでは広がりのある農地の景観、内陸部では農地の背景として起伏ある丘陵が望める。
観光商業景観	砂浜とその周辺には宿泊施設や飲食店等の観光系施設が立地する。 のびやかに広がる海岸線が形成され、海へのパノラマ ^{*13} 景観が望める。
森林景観	丘陵地。農村、漁村、観光商業、一般市街地の背景となる。

■半島部の市街地や水田と丘陵(内海付近)



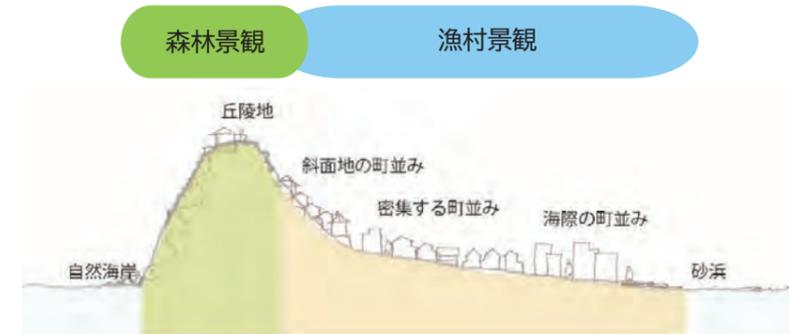
■半島部の丘陵と港湾付近の市街地(豊浜付近)



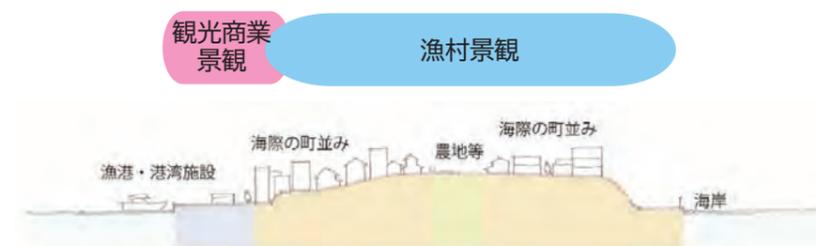
■半島部の山間集落と海辺付近に広がる水田(豊丘付近)



■島しょの丘陵と斜面地から海際まで続く密集したまちなみ(篠島)



■島しょの丘の上のまちなみ(日間賀島)



日間賀島

まちなみコラム



海の眺めと恵みとともに生きる

旅館が、海沿いや坂道の上に建ち並んでいて、各部屋からは海の広がりを見ることが出来ます。夜になると、半島（片名など）の方から旅館の明かりが煌々と見えるほどにぎわいます。

日間賀島には漁港があり、新鮮な魚が宿泊客を喜ばせています。海があるからこそ、漁業があり、旅館がある。島の中で生業が関係しあって成り立っています。

ワークショップでは、中学生も大人も、日間賀島を愛する気持ちが伝わってきました。このような、景観と暮らしの一体感が、島への愛につながっているのではないでしょうか。

（2023年8月に開催したワークショップの結果をもとに執筆）



◀ワークショップの様子

豊浜

まちなみコラム

漁業の生業を感じるまちなみ

豊浜の海浜部は、水揚げ施設や卸売市場などの施設があります。県下一の水揚げ量を誇っている漁港は、生業を感じさせる場所となっています。

この漁港の中には「豊浜魚ひろば」という海産物市場があります。水揚げしたばかりの海の幸を買い求めたり、新鮮な魚を美味しくいただける食堂などがあります。



卸売市場



豊浜魚ひろば